

詩

小さな種から生まれてくる  
いつも忘れたころにほころんで  
ふと 葉をひろげる

いつ宿したのか  
どこで受け取ったのか

でも  
ほんとうは  
ずっと 抱きしめていた

ときどき  
泣きそうになりながら

S.S